

課 題 鷹巣・国見地区に移植した越前水仙の草丈に関する試験（3年目）

担 当 者 中村 麻由美 別司 季彦

目 的 鷹巣・国見地区の平坦地で栽培される水仙は草丈が短く、切り花品質が劣り、出荷本数を増えないといった課題を抱えている。草丈が伸びない原因として、生育期の肥効と土壤水分の不足が考えられたため、昨年度の試験において、出芽初期の施肥及び寒冷紗の被覆が草丈の伸長に効果があるかどうか試験した。その結果、草丈の伸長に効果が見られたが、その一方で葉が軟弱になるなど新たな課題が発生した。そこで、寒冷紗の被覆方法、施肥時期及び県の指針にある敷きワラと比較することで、その効果について再検討する。

供 試 品 種 越前水仙（ニホンスイセン）

試 験 圃 場 南菅生町の露地圃場

試験区構成

		被覆期間		
		5日間	10日間	20日間
遮光ネット A	施肥あり	1-1区	2-1区	3-1区
	施肥なし	1-2	2-2	3-2
遮光ネット B	施肥あり	1-3	2-3	3-3
	施肥なし	1-4	2-4	3-4
敷きワラ	施肥あり	4（通年）		
	施肥なし	6（通年）		
被覆なし	施肥あり	5（通年）		
	施肥なし	7（通年）		

区制及び面積 1区制（1区3㎡、10株調査）

供 試 資 材 遮光ネット A 製品名：らくらくネットシルバー（S-80、遮光率80%）

遮光ネット B 製品名；らくらくスーパーホワイト（W-65、遮光率60～65%）
（いずれの資材も、日本ワイドクロス社製）

敷きワラ 稲ワラ

耕 種 概 要 栽培条件 露地

植栽密度 7,000～10,000球/a

施肥量 くみあい苦土ほう素入り複合硝加燐安604 6.25kg/a

施肥時期 9月13日（施肥ありの区のみ）

被覆時期 9月13日開始（被覆あり区のみ）

5日間は9月18日まで、10日間は9月23日まで、
20日間は10月3日まで

除 草 6月17日、9月12日

調 査 11月21日～12月27日

結果及び考察

- 1 雑草の生育を抑えるため6月17日に除草を行った。また、芽が傷つかないように出芽前の9月12日に除草を行った。除草後、畝から草を取り除き、施肥および被覆を行った(図1参照)。

被覆区において、10月9日に地表面から約1~2cmの出芽を確認した。11月6日時点で草丈を調査すると、無施肥区は地表面から約15cmであるのに対し、施肥区では地表面から約30~40cmの差がみられた。被覆ありとなしでは差がみられなかった(図2参照)。その後も生育を続け、11月中旬に花芽(ヤリ)を確認し、11月21日から調査を行った。12月下旬から鹿による食害がみられ、1-4区と6区で花の調査数を確保できず、12月27日に調査を終了した。

- 2 調査は図3のように、切花と同様にハカマ長が計測できるよう地面を掘りおこなった。結果を表1に示した。

施肥方法については、それぞれの被覆区において施用ありと施肥なしを比較すると1.4~1.6倍花首長が長く、伸長効果が高くみられた。

被覆方法については、被覆なしの施用あり区(5区)と施肥なし区(7区)と比較すると0.9~1.2倍花首長があり、伸長効果に差は見られなかった

以上の結果より、JA規格内の良い切花を採花する方法として、遮光ネットや敷きワラでの被覆より発芽初期に1回施肥を行う方法が効果的であると考えられる。出芽初期(芽の長さが地表から1~2cmの時)に多く窒素成分を施用することが、最も草丈の伸長効果があると思われた。

しかし、今年度は9月に雨が少なかつたため、発芽及び生育が遅くなり草丈が短くなった可能性が考えられる。通年であれば、施肥のみでさらに伸長し、より規格に適合することが予想される。次年度は、今年度と同じ施肥方法で試験して方法を確立させるとともに、他の背丈低い栽培地でも同様の試験を行い品質向上ができないか検討を行う。



図1 施肥および被覆された圃場

左：遮光ネットA、中：遮光ネットB、右手前：敷ワラ、右奥：被覆なし



図2 調査方法

表1 調査結果

試験区	被覆		施肥	調査数	平均				
	種類	期間			葉長	花首長	葉数	花数	ハカマ長
1-1区	A	5日	あり	10	40.5	34.9	3.3	5.9	6.3
1-2区	A	5日	—	10	23.1	23.0	3.5	5.9	4.0
1-3区	B	5日	あり	10	46.8	38.1	3.4	4.9	5.9
1-4区	B	5日	—	5	24.0	25.8	3.2	5.6	5.4
2-1区	A	10日	あり	10	45.4	36.0	3.4	5.9	5.5
2-2区	A	10日	—	10	22.2	21.9	3.1	4.6	4.5
2-3区	B	10日	あり	10	41.1	33.3	3.1	6.8	5.6
2-4区	B	10日	—	10	25.8	23.4	3.4	5.3	4.8
3-1区	A	20日	あり	10	43.2	37.4	3.3	5.5	4.8
3-2区	A	20日	—	10	23.7	23.7	3.5	5.7	4.7
3-3区	B	20日	あり	10	46.7	36.9	3.3	6.6	6.4
3-4区	B	20日	—	10	25.1	24.7	3.3	4.8	5.2
4区	ワラ	通年	あり	10	45.7	39.1	3.2	5.2	5.3
5区	—	—	あり	10	38.9	32.1	3.5	5.5	5.6
6区	ワラ	通年	—	4	29.3	24.0	3.8	5.8	4.8
7区	—	—	—	10	25.5	23.3	3.3	5.6	5.0

表2 越前水仙の出荷規格表

規格名	花首長	備考
えー4	40～50cm	4枚葉（はかまの長さは十分に確保する）
え	40～50cm	3枚葉
ちー4	50cm以上	4枚葉（はかまの長さは十分に確保する）
ち	50cm以上	3枚葉
ぜ	35～40cm	3枚葉
ん	30～35cm	3枚葉
水	40cm以上	赤葉、首長
仙	40cm以下	赤葉、首長

- 1) 花：輪3分咲きのもの、3輪以上付いたもの。
- 2) 葉の長さとおぼみは調和のとれたものとする。
本試験では、(葉長)-(花首長) = 7～10cmを調和のとれたものとする。
- 3) 葉先は正常なものとする。
- 4) はかまは4cm以上とする。長ければ長いほど良い。